

施策評価調書(30年度実績)

政策体系	施策名	健全な食生活と地域の食をはぐくむ食育の推進	所管部局名	生活環境部	施策コード	I-5-(5)
	政策名	安全・安心を実感できる暮らしの確立	関係部局名	生活環境部、福祉保健部、農林水産部、教育庁	長期総合計画頁	65

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	健全な食生活を実現できる県民の育成	魅力あふれる「地域の食」づくり	食育の普及啓発

【Ⅱ. 目標指標】

i	指 標	関連する 取組No.	基準値		30年度		元年度	6年度	目標達成度(%)					
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125
	朝食を毎日食べる児童生徒の割合(小5)(%)	①	H26	90.0	92.0	89.4	97.2%	92.5	95.0					

【Ⅲ. 指標による評価】

i	評価	理 由 等	平均評価
	概ね達成	栄養教諭が中心となって朝食の果たす役割を発達段階に応じて指導するとともに、給食だよりや給食試食会等を通じて保護者への周知啓発を図ったことにより、目標値を概ね達成した。	概ね達成

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や学校栄養職員が、給食時間をはじめ授業等の教育活動全体で児童生徒に対し、「朝食の重要性」や「バランスのよい食事」等の食育指導を行った。 ・「簡単朝ごはん」等の親子料理教室を開催し、レシピを保護者に配布するなど、家庭での実践を呼びかけた。また、食育講演会や給食試食会等で、保護者に対して、バランスのよい朝食の効果などを啓発することで、朝食に対する意識の向上が図られた。 ・食習慣・生活習慣の改善と運動習慣の定着を図るための取組の好事例をまとめた実践事例集を、すべての小・中学校、特別支援学校に配布し、児童生徒の健康課題の解決に向けた取組を広げることができた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の活性化と生産者の所得向上のため、直売所のハウス設置等の支援により品揃えの充実を図るとともに(10直売所)、直売所グラフィック・スタンプラリーの実施により直売所の魅力を広く発信した。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの食育の取組を総括する形で食育推進全国大会を大分駅周辺で開催した。若者や親子世代をターゲットに参加型・体験型の大会とし、33,500人が来場し、次世代を担う子ども達を含め多くの県民が食育に触れる契機となった。 ・食育PR動画や紙芝居を制作し、YouTubeやSNSを活用した食育の普及啓発を行った。 ・6月の「食育月間」と11月の「おおいた食育ウィーク」期間に大分駅前等で街頭啓発等を行い、広く県民に食育の普及啓発を行った。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(30年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	元年度の方向性	
①③	おおいたの食育ステップアップ事業	54,567	A	継続・見直し	112
②	直売所魅力・機能向上事業	26,851	A	継続・見直し	213

【VI. 施策に対する意見・提言】

○第9回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 (H30.7)

・食育推進全国大会では、予想を超える来客や食の魅力の発信など高い評価を得たが、ただのイベントとして終わらないようにしてもらいたい。

○第1回大分県食育推進会議 (H30.7)

・親世代が郷土料理を食べないことで、郷土料理を食べることがなかったり、知らない子どもたちが多く、調理実習等で作ると美味しいと食べてくれる。いろんなところで郷土料理を伝えていく取組を支援していくのが大切。

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭を中心とした朝食摂取に向けた取組を引き続き推進するとともに、児童生徒の健康づくりの基盤形成につながる食習慣の改善や運動習慣の定着を図る。 ・食育推進全国大会で培った食育関係者等とのネットワークを活かして食育を実践する県民を増やす。 ・直売所の情報発信力を強化するため、店舗パンフレットを作成するとともに、新商品開発などの集客向上に向けた取組を支援する。 ・食育人材バンクの講師を増やし、講師派遣や情報発信により、地域の特性を生かした食生活や伝統的な食文化の伝承と発展に取り組む。